

玉川小羊幼稚園

2022年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2023年3月

1. 本園の教育目標

- ・子どもたちの心の目になって豊かな対話を創り、子どもたちが自ら育つ主体性を育む。
- ・子どもたちの遊びを深め、広め、高めて、子どもたちが自ら好奇心を持って探求し、友だちと楽しく学ぶ力を育む。
- ・子どもたちが様々なものに出会う行事やわくわく体験を創り、子どもたちの生きる力、友だちとの絆を築くように育む。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

実践を通して、子どもたち一人ひとりの園生活がいきいきと豊かなものになるように取り組む。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	環境教育	A	新たにネイチャーアトリエを週二回（火、木）開設し、子どもが主体的に関わり、学ぶ姿を育んだ。
2	情操教育の充実	A	一泊保育、運動会、音楽会、クリスマス会、ふれあい動物園、プラネタリウムなど、五感を育む実践を多くもった。
3	研修会の充実	B	研修・報告を実施し、教職員間で学びあう時をもった。
4	対話を豊かにする努力	B	教員自身と子どもとの対話のエピソードを分かち合うことで学び、体験する機会をもった。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	子どもたち一人ひとりの園生活がいきいきと豊かになるように取り組めた。対話を豊かにする点では、より一層の努力が必要である。次年度へ向けては、エピソードを残すことや教師同士で分かち合うことによって、取り組みを深めていきたい。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組むべき目標とそのための課題

子どもたち一人ひとりの園生活がいきいきと豊かになるように目指す。そのため、子どもたちだけでなく、教職員も共に成長することを目指す。については、以下のことを充実させていきたい。

	課題	具体的な取り組み
1	対話	子どもたち一人ひとりの言葉を大切にし、豊かな対話に繋がるように具体的な努力を考え、実践する。
2	記録や研修	記録や研修、活動のふりかえりを充実させ、より日々の保育に活かせるように努める。
3	キリスト主義教育 保育	キリスト教幼稚園として、担っているものは何かを改めて考え、保育に活かす。

6. 学校関係者評価委員会の評価

学校関係者評価委員会の委員を招き、公開保育および意見交換を実施した。

学校関係者評価委員からの主な評価は、以下の通りである。

- ・玉川小羊幼稚園では、ネイチャーアトリエをはじめ自由遊びが活発で、子どもたちが伸び伸びと遊んでおり、食育では本物に触れられる環境教育を大切にしているのが伝わってきた。
- ・教師たちも一人ひとりの子どもと向き合っている。活動に参加しない子どもには、その子自身の意思を尊重し、自分からやる気になるまで待つ姿勢がみえた。子どもと教師が互いに心を開き、対話しながら活動をすすめていて、対話を豊かにする努力を感じた。
- ・自由遊びを大切に考えているところ、子どもの自主性に重きをおく保育観に好感をもてた。また、礼拝や活動時、気持ちの切り替えが必要な部分での指導がよくされている。
- ・大切な幼少期を友だちや教師とたくさん遊ぶことで、人生の土台となる人柄や価値観、自己肯定感がよく育っているのではないかと感じた。また、キリスト教保育の良さでは、卒園後、成長し孤独を感じる時に幼稚園で教わった神の愛を思い出せるだろうという思いが伝わってきた。
- ・保護者としても、新型コロナ禍の中にも関わらず、行事等を実施することによって、園児がかげがいのない経験をできたことについて感謝している。